

「くものす」の正体  
矢本西小学校 三年 佐藤 夢華

山にある「コンクリートのくものす」を  
みなさんは知っていますか。

わたしの住む東松島市には、「滝山」とい  
う山があり、ふもとには、わたしの家のおは  
かがあります。その近くの山の斜面に、く  
ものすはかかっています。おぼんにおはかに  
行った時にはいつも「なんだこれ？」と思い  
ながら見上げています。はじめて見た時がら  
ず、と気になっていたので、わたしは、家族  
と一緒にこのくものすの正体について、  
夏休みの間に調べました。

まずは、市役所に電話をして話を聞きました。  
た。東松島市では、平成十五年に北部地しん  
という大きな地しんがあつたそうです。わた  
しの家では、屋根がわらが落ちて雨もりして  
しまい、二かいが水びたしになつたそうです  
が、滝山では土しんくずれが起きてふもとの  
畑に土や石がたくさん落ちてきたそうです。

山のふもとには、おほかの他にも、お寺や神社、人がくろす家などもたくさんあり、これい上山がくずれないように、コンクリートのかこみを作ったそうです。これがコンクリートの「くものす」の正体でした。

3 どうして「くものす」の形をしているかというひみつもインターネットで調べました。あみの間の土の部分に植物が生えると、根っこが土にからまり、雨がいったぱいふっても土しやくずれが起きにくくなるそうです。今ま

4

ではただ一草がボーボーだーと思っ て見ていきましたが、仕組みが分かるよーこのアイディアを考えた人は本当にすごいなーと思います。コンクリートの「くものす」の正体は、わたしたちのくろしの安全をまもる大発明でした。滝山をよく見ると、しやく面には土がむきだしのところがまだあって、土が流れたあとも見つかりました。そこにも「くものす」ができて、近くの家に住む人たちが安心してくろせらるよーうになったらいいなと思います。